



ノルウェー王国 Kingdom of Norway



たばこ産業の特徴

1. シガレットの市場規模は年間約27億本（1999年）。
2. ノルウェーのシガレットの価格は世界最高。
3. 従来からRYO製品が優位な市場であったが、最近の税制変更と若者のRYO離れで工場製シガレットとの比率は47対53になり、シガレットが優位に立っている。
4. 世界最高の税率である。（RYOだけはイギリスとアイルランドの方が高い）。
5. 1975年からたばこ製品の広告は全面禁止されている。自動販売機は禁止。

[1] 法規制

警告文等：

たばこのパッケージングの表示はEU規準に従っている。

包か表面の標準の警告文は「たばこは健康を大きく損なう」、裏面には12種類の警告文をローテーションで掲載する必要あり。

TN含有量、CO量を包かに表示しなければならない。

タール規制値は15mg（1996.1.1現在）である。

喫煙場所規制：

国内線、バス、映画館、劇場は全面禁煙。

国際線、電車、カフェは規制。

職場は自分の事務室があり訪問者が3名以下の場合は許される。

レストランの禁煙席数は1998年までに1/2に引き上げられた。

これらは受動喫煙を防ぐためである。

1995年2月の新規制で、公共の場所や職場での喫煙は禁止。

1998年1月1日、政府はレストランや食事をする所のテーブルの半分以上を禁煙席にするよう決定した。

この法律の目的は受動喫煙を無くすためである。

販売規制：

1995年2月に喫煙年齢をこれまでの16歳から18歳に引き上げ、自動販売機は禁止された。

広告規制：

主要メディアを通じた宣伝広告、マーケティングは禁止されている。

業界誌の広告は例外的に許されているが、白黒字体でのみ許可されている。

たばこのブランド名を他の製品やサービスに使用することは禁止。

他製品のブランド名の助けを借りたたばこ製品の発売は禁止。

販売促進活動：

POP、サンプリング、スポンサーは禁止されている。

[2] 税制

長さ90mm未満のシガレットのシガレット税は20本当たり、1998年に4.07USドル（90mm以上の物は税金が2倍になる）、1999年には4.21USドルになった。

このような現在20本入りの国内小売価格は7.75USドルである。

最も一般的なブランドの小売価格に占める税金の割合

付加価値税	13.70%
特別税	190.86 ドル/1000本当たり
小売価格に対する税率	74.60%

輸入シガレットのEFTAを除く全ての国からの輸入品は、キロ当たり1.70USドルである。

EFTAからの輸入関税ゼロである。

パイプたばこの税金は1997年にキロ当たり81.5USドルから115.95USドルに増税された。

[3] 喫煙者プロフィール

厳しい喫煙規制にもかかわらず、デンマークと共にノルウェーはノルディック諸国の中でも喫煙率が一番高い。

時々吸う喫煙者帯が増えているために正確な喫煙者率を知るのは困難であるが、JLT社は35～36%とし、厚生当局は毎日喫煙している者の割合は32～33%で、時々喫煙する者は10%であるとしている。

年間1人当たりの消費量は2.2kgである。

[4] 市場概況

- ・ ノルウエーのシガレットの価格は世界でも多分最高であり、スウェーデンとの大量の国境貿易が行われている。
- ・ 年間製造数量は17億6,500万本（2000年）。
- ・ ノルウエーのシガレット市場はRYOが支配するという特徴があり、53対47で工場製シガレットより多く販売されていた。
2000年に物品税の改訂によりシガレットは2.5%増税になったのに対して、他のたばこ製品は18%も増税されたために、若者のRYO離れとRYOの価格上の利点が無くなり、その比率は47対53に変わっている。
- ・ 1994年以来工場製シガレットの販売量はわずかに増加して27億本（1999年）で、工場製シガレットのシェアは約50%（1970年は31%であった）になっているが、同期間中のスモーキングたばこ（ほとんど無視できるパイプたばこを含む）は3,149トンから2,300トンにまで減っている。
- ・ ノルウエー市場の別の特徴はスウェーデンとの巨大な国境貿易であり、ノルウエー市場全体の約30%を占めていると推定されている。
国内消費の10～20%は免税品や越境取り引きのために、たばこ消費量を正確に把握することは困難であるが、積極的な反喫煙キャンペーンにもかかわらずノルウエー市場は安定している。これはRYOが高率であることも一因である。
- ・ ノルウエーはEU加盟の国民投票で反対したために、スカンジナビア諸国との関係がたばこでも影響を受けている。
スイスで製造しノルウエーにシガレットを供給していたBAT Finlandは市場を失った。
J.L.Tiedemannsは、EU加盟国のスウェーデンとフィンランド向けのスモーキングたばこの製造を、同じEU加盟国のデンマークとドイツへ移した。
- ・ 新税制は葉巻市場に打撃。
シガレットを除く全てのたばこ製品に18%の特別物品税が課税されて以来、葉巻の価格は74%値上げされた。

1995年の41トンから1999年には48トンに増加していたが、2000年には33トンに急減した。

ノルウエーの葉巻はグラム当たりではシガレットと同じ税率になっている。

しかしこの急減の原因は、以前からあったスウェーデンとの葉巻の国境貿易と、疑いなくグレー市場の伸びのためである。

シガレット統計データ（100万本単位、出典：Gain Report, 2000年）

	1997年	1998年	1999年
フィルタ付き	1700	1624	1700
フィルタ無し	75	70	65
製造数量計	1775	1694	1765
輸入数量	1021	917	1000
輸出数量	25	36	50
国内消費数量	2771	2575	2715

[5] 製品概況

- ・ 最も一般的なたばこはRYOシガレット用の細刻の形で消費されており、シェアは約半分である。
- ・ ノルウエーのシガレット販売のリーダーはTiedemannsであり、市場の75%のシェアを得ており、同社のPrinceブランドのシェアは50%以上である。
ノルウエーのシガレット販売金額は9億USドルである。
このうち国の税収は75%を占めている。
1998年には900トンのシガレットしか輸入されておらず、このうち80トンはアメリカからのものである。
- ・ Svenska Tobak社の"Prince"はJ.L.Tiedemanns Tobaksfabrik社によりアンダーライセンス製造され、市場を支配している。
しかし輸入ブランド特に"Barclay"の人気上昇により、"Prince"の販売数量は徐々に落ちている。
- ・ Philip Morris、BAT、JTIもノルウエーへ輸出している。
主な輸入品はMarlboroとBarclayである。
1995年に100mmのシガレットが発売され、1年でシェア10%を獲得した。
20年前には高タール製品ばかりであったが、現在では中タールセグメント(タール15mg以下)のシェアは65%、超マイルドセグメント(1～7mg)は8%になっている。
- ・ RYOは最近減少しているとはいうもののノルウエーでは非常に人気があり、Petteroeブランドはこの市場で60%のシェアを得ている。
JLTはこの市場で86%のシェアを持っている。
ノルウエーのクリスチャンサンにある他の唯一のたばこメーカーA. Asbjornsensがシェア10%を持っている。
JLTは製造数量の6%を輸出しているが、デンマークのOrlik Tobaccoから輸出している。
これはEUの非常に高い輸入税を回避するためである。ノルウエーはEU加盟国ではない。
- ・ 嗅ぎたばこもノルウエーで人気が高まっており、2000年の公式の販売数量は2.4%増の363トンであった。
しかしこの製品の数字は少なすぎるとされている。消費数量はこの2倍であり、50%は個人的に嗅ぎたばこの故郷スウェーデンから輸入されている。
スウェーデンマッチ社のGeneralはノルウエーで一番人気があるブランドである。

シガレット・シェア（2000年）

ブランド名	会社名	シェア
Prince	JTL	53%
Marlboro	PM	20%
Barclay	JLT Import	10%
Petteroe	JLT	6%
Pall Mall	JLT Import	3%
Lucky Strike	JLT Import	3%

製品の平均価格（20本入りのシガレット）

国産ブランド 7.28USドル
 外国ブランド 7.28USドル
 （RYOは50グラムで9.5～10.9USドル）

[6]小売り流通

- ・ オスロー、ベルゲン、トロンドハイムの大きな街に全部で5個所のたばこ専門店がある。大部分のたばこ製品はキオスクや2,500の新聞、菓子、雑誌を売る店で販売されているが、スーパーマーケットやガソリンスタンドでの販売も増えている。自動販売機は禁止。小売り店は自分のマージンを決めることができる。
- ・ 新税制のために、ノルウエーとスエーデン市場の価格差は1998年で40%にもなった。今日、ノルウエーへの密輸シガレットは密輸ナンバーワンの品目になっており、密輸業者の間では酒よりも人気が高くなっている。1997年にノルウエー税関は1,200万本のシガレットを押収したが、この数量は実際の密輸量の5%に過ぎないと言われている。

[7] 企業概要

ノルウエーにはたばこ会社は2社しかない。

J.L.Tiedemanns Tobaksfabrik :

たばこ、食品包装システム、レジャー産業を行なっているTiedemanns Group社の子会社であったが、このノルウエーで一番古いたばこメーカーJLT社は1999年にデンマークのSkandinavisk Tobakskompagni社に買収された。

現在はDanish Scandinavian Tobacco Co.(House of Prince)の子会社として経営されている。

JLTは現在ノルウエーでPrinceの製造、流通、マーケティング、販売を担当しており、Barclay、Lucky Strike、Pall Mall、Benson & Hedgesなどのブランドも輸入している。

自社ブランドはSouth State、Petteroes、Teddy、Tiedemanns Rod。Petteroesは同社の有名な古い固有ブランド。

パイプたばこや葉巻、RYOも製造しており、嗅ぎたばこの大手流通業者でもある。

1999/2000年の売上は11億7,800万NOKで、前年に比べて4%増えた。

税引き前の利益は12%増の3億9,480万NOKであった。

シェアは約76%。RYOの製造はノルウエーからEU加盟国のドイツとデンマークへ移している。

Asbjornsens Tobaksfabrik :

細刻とパイプたばこを国内とスエーデン向けに製造している。

主なブランドはEventyrblanding、Bristol、Original。RYOのブランドは15種類。

シェアは30%。RYOを250トン、刻たばこを400トン販売している。

同社は葉たばこを輸入して、中近東、アフリカ、東欧の企業のシガレット製造用に刻を製造し輸出することで新しい市場を開拓している。

国内市場では約5～10%のシェアしかない。